

履修モデル

学位取得に向けて研究するために、研究課題に即した適切な授業科目を選択しなければならない。そのため、以下の履修モデルを参考に研究課題に即したオリジナルな履修計画を立てることとなる。

| | | |
|--------|-------------|---|
| 日本文学専修 | 研究題目 | 森鷗外 歴史小説研究 |
| | 養成する具体的な人材像 | 時代状況・文化との関わりを踏まえた上で、日本近代文学研究の諸方法論を学び、研究者として自立できる人材を養成する。 |
| | 研究内容 | 「明治」から「大正」へと元号が代わった1912年、その9月13日に行われた明治天皇大葬の当日、乃木希典が殉死するという事件が発生した。1887（明治20）年4月18日、留学の地・ドイツベルリンにおいて初めて乃木と出会い、以後長い交際を続けていた鷗外は、この事件に衝撃を受け、江戸期、熊本・細川藩に実際にあった主君に殉死した侍を主人公に、「興津弥五右衛門の遺書」を一気呵成に書き上げ、10月の『中央公論』誌上に発表する。これが鷗外歴史小説の第一作となり、以後1916年1月発表の「寒山拾得」まで、大正期の鷗外は都合16編の歴史小説を発表する。しかしそれら歴史小説は、「其の過去は単純なる過去にあらず、却てよく現在を説きまた未来を暗示するものたるを知れり」（『隠居のごこと』『女性』1923年9月）と、永井荷風が鋭く指摘していたように、決して「いま」「ここ」の問題と無縁のものではなかった。本研究では、作品生成の土壌（依拠資料との関係、時代状況との関係、同時代文学との関係、他作家との交響関係等）を明らかにし、鷗外歴史小説の有り様を明らかにすることを目指す。 |
| | 指導教員 | 木戸雄一教授 研究計画、研究全体の指導、森鷗外研究の指導 内藤千珠子教授 近代文学研究の指導、文化研究の指導 |
| | 履修科目 | 近代現代文学特論Ⅰ（2単位）、近代現代文学特論Ⅱ（2単位）、近代現代文学特論Ⅲ（2単位）、近代現代文学特論Ⅳ（2単位）、研究指導Ⅰ（2単位）、研究指導Ⅱ（2単位） |

| | | |
|-------------|-------------|--|
| 英語文学・英語教育専修 | 研究題目 | 日本人英語学習者に対するフォーカス・オン・フォームの研究 |
| | 養成する具体的な人材像 | 洗練された言語センスと研究方法を身につけ、言語教育の課題を発見して解決をめざせる人 |
| | 研究内容 | 各種の調査は、多くの日本人英語学習者は十分な文法力を習得していないことを報告している。基礎的な文法知識の未定着に加え、一定の知識を持っていてもそれを言語使用の場面で使用できない実態が問題となっている。対処策として期待されるのはフォーカス・オン・フォーム（FonF）である。これは、意味、形式、機能の3つの側面に学習者の注意を払わせながら実際のコミュニケーションで使用できる力を高める画期的な指導法だと考えられている。しかし、従来の形式重視の指導法と比較した指導効果の実証研究は不十分である。実証研究を進めるためには、日本人学習者の文法知識の質の調査、3つの側面に注意を払わせる指導方法、指導効果を測定するための文脈テストの開発、などが必要である。これらを整備したうえで、日本人英語学習者に対する効果の実証研究を行う。 |
| | 指導教員 | 伊東武彦教授 指導計画、FonFに関する先行研究の理解、指導、統括 IKEDA, Ken 教授 文脈作成に関する指導、文法必然性に関する指導 |
| | 履修科目 | 英語教育学特論Ⅰ（2単位）、英語教育学特論Ⅱ（2単位）、英語教育学研究Ⅰ（2単位）、英語教育学研究Ⅱ（2単位） 研究指導Ⅰ（2単位）、研究指導Ⅱ（2単位） |

| | | |
|--------|-------------|---|
| 国際文化専修 | 研究題目 | 異文化コミュニケーションと国際社会における問題解決に関する研究 |
| | 養成する具体的な人材像 | 現代の国際間における諸問題の解決を図り、学問文化の向上発展に寄与する実践的研究者および高度専門職業人 |
| | 研究内容 | グローバル化した社会では、価値観の相違からさまざまな問題が生じる。異文化コミュニケーションはその問題を解決するための学問といえよう。たとえば、2008年、米国のスタンフォード大学に設立された「慈悲と利他の研究教育センター（Center for Compassion and Altruism Research and Education）」が、「慈悲（Compassion）」や「利他（Altruism）」という東洋的な考え方を取り入れ、問題解決をはかるようとする姿勢は世界的な共感をよんだ。このような中で、異文化をただ理解するのみならず、謙虚に自らの社会における実践に取り入れようとする動きも出てきている。本研究では、異文化コミュニケーションを問題解決のための実践的学問ととらえ、文化の本質を探究した上で、社会への応用方法を構築したい。 |
| | 指導教員 | 松村茂樹教授 主に異文化コミュニケーション、国際社会に関わる研究指導 渡邊顕彦教授 主に西洋古典学、比較文化に関わる研究指導 戸田山祐准教授 主にアメリカ史、移民研究に関わる研究指導 |
| | 履修科目 | 異文化コミュニケーション研究Ⅰ（2単位）、異文化コミュニケーション研究Ⅱ（2単位）、比較文化・思想特論Ⅰ（2単位）、比較文化・思想特論Ⅱ（2単位）、社会・政策コミュニケーション特論Ⅰ（2単位）、社会・政策コミュニケーション特論Ⅱ（2単位） 研究指導Ⅰ（2単位）、研究指導Ⅱ（2単位） |